

京城日報

九月十日夕刊 (朝刊付て八頁)

第二北滿派遣

先頭部隊八日釜山陸上
先頭部隊は先月二十九日より九月六日迄に
所屬部隊は先月二十九日より九月六日迄に
動員を完了し其の先頭部隊は六日釜山を
出帆して八日釜山に上陸引続き鐵道に依り
北上せり

師團主力行動準備

ハロフスクに進軍せる我第二師團主力
ハロフスクに進軍せる我第二師團主力
ハロフスクに進軍せる我第二師團主力
ハロフスクに進軍せる我第二師團主力

支那市進入企圖

支那市進入企圖
支那市進入企圖
支那市進入企圖
支那市進入企圖

支那市進入企圖

支那市進入企圖
支那市進入企圖
支那市進入企圖
支那市進入企圖

支那市進入企圖

支那市進入企圖
支那市進入企圖
支那市進入企圖
支那市進入企圖

石見歸港

石見歸港
石見歸港
石見歸港
石見歸港

西部戰線現勢

西部戰線現勢
西部戰線現勢
西部戰線現勢
西部戰線現勢

貿易概況

貿易概況
貿易概況
貿易概況
貿易概況

浦鹽爲替開始期

浦鹽爲替開始期
浦鹽爲替開始期
浦鹽爲替開始期
浦鹽爲替開始期

徐世昌條件提出

徐世昌條件提出
徐世昌條件提出
徐世昌條件提出
徐世昌條件提出

徐世昌條件提出

徐世昌條件提出
徐世昌條件提出
徐世昌條件提出
徐世昌條件提出

徐世昌條件提出

徐世昌條件提出
徐世昌條件提出
徐世昌條件提出
徐世昌條件提出

徐世昌條件提出

徐世昌條件提出
徐世昌條件提出
徐世昌條件提出
徐世昌條件提出

徐世昌條件提出

徐世昌條件提出
徐世昌條件提出
徐世昌條件提出
徐世昌條件提出

徐世昌條件提出

徐世昌條件提出
徐世昌條件提出
徐世昌條件提出
徐世昌條件提出

徐世昌條件提出

徐世昌條件提出
徐世昌條件提出
徐世昌條件提出
徐世昌條件提出

徐世昌條件提出

徐世昌條件提出
徐世昌條件提出
徐世昌條件提出
徐世昌條件提出

徐世昌條件提出

徐世昌條件提出
徐世昌條件提出
徐世昌條件提出
徐世昌條件提出

徐世昌條件提出

徐世昌條件提出
徐世昌條件提出
徐世昌條件提出
徐世昌條件提出

徐世昌條件提出

徐世昌條件提出
徐世昌條件提出
徐世昌條件提出
徐世昌條件提出

徐世昌條件提出

徐世昌條件提出
徐世昌條件提出
徐世昌條件提出
徐世昌條件提出

徐世昌條件提出

徐世昌條件提出
徐世昌條件提出
徐世昌條件提出
徐世昌條件提出

徐世昌條件提出

徐世昌條件提出
徐世昌條件提出
徐世昌條件提出
徐世昌條件提出

徐世昌條件提出

徐世昌條件提出
徐世昌條件提出
徐世昌條件提出
徐世昌條件提出

徐世昌條件提出

徐世昌條件提出
徐世昌條件提出
徐世昌條件提出
徐世昌條件提出

徐世昌條件提出

徐世昌條件提出
徐世昌條件提出
徐世昌條件提出
徐世昌條件提出

徐世昌條件提出

徐世昌條件提出
徐世昌條件提出
徐世昌條件提出
徐世昌條件提出

徐世昌條件提出

徐世昌條件提出
徐世昌條件提出
徐世昌條件提出
徐世昌條件提出

徐世昌條件提出

徐世昌條件提出
徐世昌條件提出
徐世昌條件提出
徐世昌條件提出

徐世昌條件提出

徐世昌條件提出
徐世昌條件提出
徐世昌條件提出
徐世昌條件提出

を示せるもの、豈に其の由る所なきを得んや。然り瑞穂の稱は決して偶然ならず、天祖國を建つ

行はれる食物を毎戸に配當てる
 同じ原則を勞働者供給に應用し
 もの云つてよい、此方法を實

新火

年來創立計畫成り工場
中の處今般全部竣工致
石見屋活版所初田印刷

事務室倉庫建築
に付豫定の通り
の兩工場及印刷

する時は第一は戦争に必要となる兵器、備用者を使用する事がなく、第二には兵器、備用者の移動による國家の損失を免れる事をする。此處に「勸誘の禁止」の米國の城主は「備用者」を「直接間接の方法で」兵器を動かすことを禁じられた。

ホノボノ

今

虫の夕、灯の
丁度、今が、著書
最も落着いて聴

新刊

美の冬雪を詠り受け、
日より事業開始し、今後
と共に一層大勉強諸般
命御引立の程偏に奉希
大正七年九月一日
群山府明治

印刷會社
株式會社
電話一七三番
印刷能力の増加
於て御満足を呈
多に不拘御用
候拜具

要する事もならぬ、彼等が労働者
 農する場合には政府に申出る、
 府は其事業が競争に必要か否か
 見て労働者を供給する事もあ
 る、或は供給せぬ事もある、政府
 給を拒め、其の立場は労働者
 入れる事が出来ぬ事になる

◆賃金の公定 米國政

時なのであ

器印レニール

金壹圓貳拾

マシンの所が吹込まれ

ず洞んで解かる面白い

九月月版(連星)

兵庫縣 山邑太左衛門

宮内省御用

醸造
王ラクサ

る。戦争が始まるさ同時には、郵政局が出来て軍需物資の輸送に金定を調査してゐた。所が、品製造業と云つても其の關係が廣く且他の工業との關係が廣く、其の爲めに、畢竟金定を決定するに、其の爲めになつた。

法曹紙屋

櫻魂發賣元 山

宗

丁目

二京城支店

長八四九番一四五四番
智贈金口座京城七五番

に關して一の難問題は田宮の經
その區別を何うする云ふ事や
田宮は「價は安い都會は」
「價が高い都會」田宮の職工
を討一にしたら田宮の者が理
を得る事になつて不公平を免れ
、併し労働大王ウィルソンに


國產金線印

子俱募售

年齡十三四歳より十七歳迄、縮實に探申の上は當店含宿所に宿泊せしめる者は自來風歴書携帯本人來本


(電話に)

城京



三城

保證人を要す
相當給料を與ふ
れ
（高合は謝絶す）
吳服店


 並行線
 瀧閑

内務省東京衛生試験所御分所
金沢印ミルク 磐印ミルク
乳 糖 一三、八五 二二、六三
蔗糖 四〇、三 一一、八〇
脂肪 九、五六 九、五六
蛋白質 八、八六 九、三〇
灰分 一、九九 一、九二

株式の選擇	
諸君	株式會社
第一	東京株式會社
第二	大阪株式會社
第三	神戶株式會社
第四	名古屋株式會社
第五	京都株式會社
第六	福岡株式會社
第七	横濱株式會社
第八	仙台株式會社
第九	青森株式會社
第十	岩手株式會社
第十一	秋田株式會社
第十二	山形株式會社
第十三	宮城株式會社
第十四	福島株式會社
第十五	茨城株式會社
第十六	栃木株式會社
第十七	群馬株式會社
第十八	埼玉株式會社
第十九	千葉株式會社
第二十	東京株式會社

五九商會有限公司

清策は床の間を避けて其側に
つた。おのぶは入口の襖の隙に
を固くして坐つた。昔の情人は
う云ふ處で、斯う云ふさまに相
したのである。

『暫くでしたねわ。』
『清策は口を切つた。』そして
おのぶが胸に、第三の鉄

生乳煉

CONDENSED MILK

REGISTERED TRADE MARK

於營業罷在候處以御蔭
段偏に各位御愛顧の賜と
大發展に従ひ從來の場所
爲七月以來（京城府廳構
般漸く竣工仕移轉と共に

一丁目裏通りに
増隆盛に趣き候
ては謝候就ては
深謝候を感じ
ては新築中の處
に諸般の設備を

「是は清東の眼にも明かに知り得た
て少し顔色を動かしたが、可なり
に」
「斯うして私はモウ貴女には逢
て二分でも三分でも話する事
が出来れば満足です。」云つて四
つを見送した。

內外一手販賣
朝鮮特約店

可仕候間倍舊御愛顧を賜
 層完全にし鯨麗迅速町囀
 和洋紙 女房具 京成本町二丁目五十五
 諸帳簿印刷 北内
 京成本町二丁目府縣
 同印
 本店所

度伏とどろて奉希上候
旨とし専心勉強
吉商店
電話一五一二番
振替京城一五九番
刷製本所
電話二〇貳二番
東京市四谷區大塚町角

「二口密時事」
十四日
十五日
十六日
十七日

余發見通告者には五千餘番輪線を
學す但何害何留に明記に限る▲班
名は京城の諸書目録著文檢査月

大正七年九月一日
 石見屋活版所
 期許計數十
 可植立一年
 使一就感不
 下就一感不
 付就一感不
 印而植感不
 究所立立
 同立工
 期許計數十
 可植立一年
 使一就感不
 下就一感不
 付就一感不
 印而植感不
 究所立立
 同立工
 期許計數十
 可植立一年
 使一就感不
 下就一感不
 付就一感不
 印而植感不
 究所立立
 同立工

年來創立計畫成り工場及事務室倉庫建築
中の處今般全部竣工致候に付豫定の通り
石見屋活版所初田印刷所の兩工場及印刷

日よの全書を讀み受け、外務に配能力を増
 進し、専門業開始、今後は印刷能力の増加
 と共に一層大勉強諸般に於て御満足を呈
 すべく期待罷在候間、何卒多少に不拘御用
 命御引立の程、偏に奉希上候 拜具
 大正七年九月一日
 群山府明治町
 群山印刷會社
 電話一七三番

兵庫縣 山邑 太左衛門 釀造
御省內宮
正ラケサ

櫻正宗
櫻魂發賣元

京坂明治町二丁目

電話長八四九番 四五四番
探糖 贈金口 廣示城七番番

達凡

宗

京坂明治町二丁目


電話長八四九番 四五四番
探糖 贈金口 廣示城七番番

年節十三四歳より十七歳迄簡宜なる保護人を要す
 採用の上は常民会宿所に宿泊せしめ相當給料を與ふ
 の者は自筆履歴書携帶本人來店あれ

(電話にて問合は謝絶す)

子供募集

東京 城



三越 呉服店

[illegible]

弊店印刷製本部は從來本町一丁目裏通りに於て營業罷在候處に御蔭増隆盛に趣き候段區に各位御愛顧の賜と奉深謝候就ては前次發展に從ひ從來の場所にては狭隘を感じ候爲七月以來(京城府廳橫通)に新築中の處今般漸く竣工仕移轉と云ふ諸般の設備を一

同印刷製本所
 本店所在 東京市四谷區大塚町二丁目
 電話二〇五二
 振替京城一五九番



皇太子殿下の御英姿

畏し、御勇武の御面影

東宮殿下の御修徳
毎朝桃山御陵及び宮城を御視察
小川賢之助氏講話

東宮殿下は、皇太子殿下の御英姿を御視察するに、毎朝桃山御陵及び宮城を御視察するに、小川賢之助氏講話。東宮殿下は、皇太子殿下の御英姿を御視察するに、毎朝桃山御陵及び宮城を御視察するに、小川賢之助氏講話。

皇太子殿下の御英姿を御視察するに、毎朝桃山御陵及び宮城を御視察するに、小川賢之助氏講話。皇太子殿下の御英姿を御視察するに、毎朝桃山御陵及び宮城を御視察するに、小川賢之助氏講話。

皇太子殿下の御英姿を御視察するに、毎朝桃山御陵及び宮城を御視察するに、小川賢之助氏講話。皇太子殿下の御英姿を御視察するに、毎朝桃山御陵及び宮城を御視察するに、小川賢之助氏講話。

皇太子殿下の御英姿を御視察するに、毎朝桃山御陵及び宮城を御視察するに、小川賢之助氏講話。皇太子殿下の御英姿を御視察するに、毎朝桃山御陵及び宮城を御視察するに、小川賢之助氏講話。

皇太子殿下の御英姿を御視察するに、毎朝桃山御陵及び宮城を御視察するに、小川賢之助氏講話。皇太子殿下の御英姿を御視察するに、毎朝桃山御陵及び宮城を御視察するに、小川賢之助氏講話。

皇太子殿下の御英姿を御視察するに、毎朝桃山御陵及び宮城を御視察するに、小川賢之助氏講話。皇太子殿下の御英姿を御視察するに、毎朝桃山御陵及び宮城を御視察するに、小川賢之助氏講話。

町村長等
縣廳に押免く
御免を賜ふ

煉炭を掘る
平壤の人
掘り下げる

西伯利に
看護婦
更に派遣する

盛んな送迎を受けて
第二師團の獵犬北行す
疾風迅雷の勢

浦陽軍軍報
從軍記者金谷眞影

眞に鎧袖一觸
夫も九州男兒の勇猛による
敵はもう袋の中にも

獨斷的決心を
無敵の決心を
無敵の決心を

少將昇任した村田總督附武官
村田總督附武官
村田總督附武官

酒屋
酒屋
酒屋

酒屋
酒屋
酒屋

酒屋
酒屋
酒屋

酒屋
酒屋
酒屋

酒屋
酒屋
酒屋

酒屋
酒屋
酒屋

酒屋
酒屋
酒屋

酒屋
酒屋
酒屋

酒屋
酒屋
酒屋

酒屋
酒屋
酒屋

酒屋
酒屋
酒屋

酒屋
酒屋
酒屋

酒屋
酒屋
酒屋

酒屋
酒屋
酒屋

酒屋
酒屋
酒屋

酒屋
酒屋
酒屋

酒屋
酒屋
酒屋

酒屋
酒屋
酒屋

酒屋
酒屋
酒屋

酒屋
酒屋
酒屋

酒屋
酒屋
酒屋

酒屋
酒屋
酒屋

酒屋
酒屋
酒屋

酒屋
酒屋
酒屋

酒屋
酒屋
酒屋

酒屋
酒屋
酒屋

酒屋
酒屋
酒屋

酒屋
酒屋
酒屋

酒屋
酒屋
酒屋

酒屋
酒屋
酒屋

酒屋
酒屋
酒屋

酒屋
酒屋
酒屋

酒屋
酒屋
酒屋

酒屋
酒屋
酒屋

酒屋
酒屋
酒屋

酒屋
酒屋
酒屋

酒屋
酒屋
酒屋

酒屋
酒屋
酒屋

酒屋
酒屋
酒屋

酒屋
酒屋
酒屋

つま
あ
の
心
八十九

十五の二 小林蹴月作 武内桂舟畫

[illegible][illegible]

デスの或る象記を讀むて次のやうな一條がある「デンマークの婦人が當時の安寧な平和の夏を讀書會に行くと、其の日は未だ晴早いので誰も來るゝなかつた。婦人は教堂の前の石に座を占めてゐる。

★後の扉を さつと開けて
十四五人の女學生が入つて來た。
皆襟に黒い服を着てゐた、やがて彼女達は其の女の周圍に座を占めて、轉手を押して行、出出した、何でも此の天使の一面の歌を指揮してゐたのは、かの有名な詩人ブーシヤの遺兒であつた。」云ふ事である。

○公州に於て
宣城 興村 小舟
臨がけしかるるしりに 山の御今日
日につけし燈籠を 夕まぐれ群
の光のチヤラチヤをさき

○金郊より (雲松軒より)
坡脚
鐘の前の妻がいふ題額を照
題額はよせてかへす紙封し
題額の太い筆でこのを
の君にせなはいふ題額にお
女房長し題額が光つてなら
安にがひひし追追題額を理
不意哉

くらき題額花紫衣を穿るおそれ
いちにを待ちあけつ題額後
大は前口の一家であつ題額後
ほつきり折題額くうてならぬ

○私のくらしから七)

殺された、露國の婦人は從來も、男より偉いと思へない。男は口で言つてゐる、ドクトル長瀬博士さんは此の露國の婦人に就いて「君を暗殺したカルタフといふ婦人は、どんな經歷を有つたか」婦人があるかも知れないが、

★露國の女 は一様にも男よりも優れてゐる中、頭の良い器用のある婦人は多く、中流以上の階級に屬する婦人は家外自由を得てゐる。半獨立的に屬する婦人も學問も相當修めてゐるのである。然るに婦人の社會改革運動にも加し、或は教師として或は若者婦として國家的主義擴張をやてゐる者も多かつた。かゝる例では七八年前から起つたもので今迄には婦人の身で

★西伯利へ 溺されたものでも決して少くなかつた彼の革命黨

○龍鑑　群山夢　總
 前大日孁尊不勝明王を祈りて應に感
 得の夢人、
 雲霧の御由は悲し　貴族の所女は涙にう
 たれけるかも
 龍鑑　湖に打たるゝ病人の一心は仰々
 龍鑑　立したる我を悲ませめよまなす
 人たれ居るかも
 しんこ樹立に心懸りて夜もすが
 ら涙を流して泣く
 龍鑑　初秋なきけり
 仁川　西村幸治郎
 計畧のわれをはかぬ佇める夕べの
 に辰風吹く
 ○初秋のひる
 明けの陽に屹立つ　時運に自然かゝる　初手
 石ころ
 ○我が生命　利尻守子
 踏破る石ころに似し　の命人に望まれ
 てわけなきけりし
 大海を心をすれば　さかみの　後の心は

[illegible][illegible][illegible]

優等清酒

廣島縣西條町

釀造元木村靜彦

京城市鐘路(中央)

發賣元河野酒店

電話二〇八號

廣島縣西條町

釀造元木村靜彦

京城市鐘路(中央)

發賣元河野酒店

電話二〇八號

廣島縣西條町

釀造元木村靜彦

京城市鐘路(中央)

發賣元河野酒店

電話二〇八號

廣島縣西條町

釀造元木村靜彦

京城市鐘路(中央)

發賣元河野酒店

電話二〇八號

廣島縣西條町

釀造元木村靜彦

京城市鐘路(中央)

發賣元河野酒店

電話二〇八號

廣島縣西條町

釀造元木村靜彦

京城市鐘路(中央)

發賣元河野酒店

電話二〇八號

廣島縣西條町

釀造元木村靜彦

京城市鐘路(中央)

發賣元河野酒店

電話二〇八號

廣島縣西條町

釀造元木村靜彦

京城市鐘路(中央)

發賣元河野酒店

電話二〇八號

廣島縣西條町

釀造元木村靜彦

京城市鐘路(中央)

發賣元河野酒店

電話二〇八號

廣島縣西條町

釀造元木村靜彦

京城市鐘路(中央)

發賣元河野酒店

電話二〇八號

自轉車タイアの数は
星の数はさうりき違ひも
如何なる道路も
確かに安んじて
使用し得べきタイアは

ダンロップ

を指して他に幾何ぞある

荷もタイアを経済的に使用せんとする人々は
悉くダンロップを用ふべきなり……………

、
到る處の自動車店にあり

ダンロップ自動車
タイアは各自動車店にあり

DUNLOP TYRE THE DUNLOP WAY
DUNLOP SAFETY

化粧百態 俊魚

「仕上げ」

リート使白粉で美しく仕上げるのが出来た。其上仕上げのリート粉白粉。まあ何とない美しくしなるのでせう。

しろ じやうひん っや
白さが上品で艶のある

リート白粉

はつあき
初秋の
お化粧

暑さで荒れたお肌へは、中々白粉が落附きません。然しリート白粉はお肌の根底から整へますから、何の御心配もなく、荒れたお肌を美しくする上に、淑やかで上品なお化粧が出来、最も初秋のお化粧に適はしい美しくしなこなります。

「朝夕はリート水白粉を附けて、リート粉おしろいで粉まきなされば、上品なお化粧が出来ます」

リート化粧料本舗 東京 平尾賛平